

第43回 新春奥沢地区まつり 開催 2年ぶり

令和7年1月19日(日)に東玉川小学校にて第43回新春奥沢地区まつりが開催されました。昨年12月から奥沢中学校の改築工事が始まり、中学校の校庭が使用できなくなったため今回、東玉川小学校を会場に行われました。昨年は雨で中止となったため2年ぶりの開催となりました。

会場には餅つき体験コーナー、模擬店、ゲーム遊び、ミニステージ、防災コーナーなどが設置され、4,300人あまりの来場者で大いに賑わっていました。



奥沢地区社協はPRとしてパンフレットや広報誌「おくさわココロン」などを配布して事業紹介、食で応援プロジェクト、今回から「点字体験コーナー」を設け50名の方に福祉体験をしていただきました。福祉の時間にやったよと小学生、点字で打った名刺を大事そうにバックの中へ。誰でも参加できる福祉体験、これからも続けていけたらと思います。

あわせて能登半島災害義援金募金活動を行い7,728円の募金をいただきました。募金、食で応援プロジェクトへのあたたかいご協力に感謝申し上げます。

福祉体験(点字)

食で応援プロジェクト



令和6年度
奥沢地区社協推進員研修

《立川防災館で防災体験》



令和6年度の推進員研修は『防災』をテーマとして取り上げました夏の座学研修では「身近な防災について(在宅避難の備え)」と題して、奥沢まちづくりセンターのまちづくり・防災担当係長の和田直己



氏より震災への備えなどについて詳しくお話を伺いました。

そして、令和7年2月12日に開催しました推進員バス研修では立川市にあります東京消防庁立川防災館(都民防災教育センター)

を訪問、インストラクターの案内で「4つの防災体験コーナー」で、詳しい説明のもとで防災の体験(又は訓練)を行いました。

1番目は「救出救助コーナー」です。ここでは、地震で倒壊した家屋を再現した空間で、要救助者の捜索から救出までの行動を体験することができ、さらに救助活動を行う上での注意すべき事項について詳しい説明があり、救助活動の難しさを感じさせられました。



2番目は「VR防災体験コーナー」です。VR(バーチャルリアリティ)を活用した地震・火災・風水害などの臨場感あふれる疑似体験をすることができる装置で、VR用ゴーグルを装着して可動する座席に座って災害の疑似体験をしました。



3番目は「応急救護の訓練」です。いざという時のために、訓練用の人形を使用して、胸骨圧迫心臓マッサージの方法、そしてAEDの操作要領などの説明を受けてから、実際に訓練の体験をしました。



そして4番目は「地震体験」です。本物そっくりの地震の振動を体験し、地震が起きてもあわてないように、普段の心構えやいざという時の行動を学びます。でも体験した震度6強の揺れは強烈でした。

震災はいつ起こるか分かりません。このような体験(訓練)を通して震災に備える力を身につけ、出来るだけ大勢の方と共有したいと強く思う研修でした。

